

東京医科歯科大学医学部附属病院「みんなの健康を育む病院だより」

# オアシス



病院をもっと知って快適に…

## 患者さんのQ&Aに答えます!

東京医科歯科大学医学部附属病院をもっと快適にご利用いただくために、患者さんの質問にお答えします。ぜひお読みください。(回答：患者相談室)



### 春です! 病院の空中庭園を散歩しませんか?

当病院の8階にはビルの上にいることを忘れてしまいそうな緑の庭園があり、まさに病院のオアシスのようです。特に春は、カラフルな花が咲き誇り、とてもキレイです。ぜひ気分転換に散歩しながら、花と緑に癒されてください。



### 院内コンサートが開催されました!

病院のロビーがコンサート会場になる院内コンサートが2月28日に開催され、演奏には、教養部の徳永伸一准教授のご紹介で、新澤健一郎さん(ピアノ演奏)と太田朱美さん(フルート奏者)に来ていただきました。演奏中は多くの患者さんが足を止め、演奏を楽しんでおられました。今後の予定など詳しくは病院内のポスターや「ご案内」にお聞きください。



### 表紙から

オアシス第2号の表紙は、ロビーで微笑む宮坂信之病院長。日頃から病院スタッフに「患者さんが気持ちよく安心して受診できるよう笑顔を忘れずに!」とアドバイスするだけある素敵な笑顔です。

東京医科歯科大学医学部附属病院 広報誌「オアシス」2号  
発行 東京医科歯科大学医学部附属病院広報誌  
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45  
東京医科歯科大学医学部・医学部附属病院総務課  
デザイン・SOYA  
編集・宇山恵子  
撮影・井原淳一

オアシスについてのご意見・ご感想は syomu2.adm@tmd.ac.jp までご連絡ください。本書の無断複製(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

### INDEX

## 東京医科歯科大学医学部附属病院長 宮坂信之 「オアシス」第二号発刊にあたって

患者さんの気持ちを大切に…  
難病の「トータルケア」を実践する  
5つの先端治療センターがスタートしました  
患者さんにどう役立てる? 5人のセンター長に聞きました

東京医科歯科大学医学部附属病院ロビーにて

**Q** 初診でわからないことばかり。どうしたらいいの?



**A** 「ご案内カウンター」または「総合受付」のスタッフに「初診」であることを伝えてください。初めてご来院いただいた患者さんは、わからないことばかりで不安だと思います。まずは、ロビー右手の「総合受付」のスタッフに「初診の手続き方法を教えてください」と声をかけていただければ、スタッフがわかりやすく対応させていただきます。

**Q** 席を外している間に順番がきたら、どうしよう!!

**A** 大丈夫。それぞれの窓口にご相談ください。診察、会計、お薬など、お待たせしてしまうことが多く、大変申し訳ありません。病院スタッフ一同、患者さんをお待たせしないように最善を尽くしております。診察を待っている間にトイレなどで席を外す場合は、各外来窓口にお声かけ下さい。

**Q** 工事中で場所がわからない。誰に聞けばいい?



**A** 申し訳ございません! 「ご案内カウンター」または「総合窓口」にお尋ねください。

「場所がわからない」場合はロビーにある「ご案内」のスタッフにお尋ねください。地図などがありますので、わかりやすくご説明します。現在、当院では、大規模な改修工事を行っており、ご利用の皆様にはご迷惑をおかけしております。工事終了後には、快適にご利用いただける病院になりますので、しばらくの間、ご協力ください。

**Q** ロビーで携帯電話は使えるの?



**A** 禁止の場所と使える場所があります。

ロビー内で携帯電話の使用を禁止している場所には、写真のようなステッカーを貼っています。このサインの近くでは、携帯電話の電源をOFFにして下さい。







# 「オアシス」 第二号発刊 にあたって

医学部附属病院長 宮坂信之



このたび「オアシス」第二号が発刊されることになりました。昨年、第一号を発刊したのですが、素人集団による手作りのため、内容的には「いまいち」とのご批判をいただきました。

そこでいろいろな方から全面的にご指導をいただき、第二号が完成しました。第一号よりは内容的にもよくなっていると思いますが、如何でしょうか？ これからもよりよい内容にしたいと思っておりますので、皆様からのご意見を頂戴できれば幸いです。

さて、昨年の東日本大震災は我が国にとって強烈なボディブローとなり、そのダメージからは未だ回復しきれていないのが現状です。全国の医学部附属病院を始めとして多くの病院から医療支援活動が行われ、現在も続いています。また、数多くのボランティアが被災地を訪問して援助活動を展開しています。しかし、肝心の国からの支援が、果たしてタイムリーかつ十分なのかどうか、疑問を持っている方も少なくないと思います。

つい先頃、文部科学省のプロジェクトチームは、首都直下を震源とする「東京湾北部地震」で、従来の想定を上回る震度7の揺れが首都圏の一部を襲う可能性があるとの分析結果を公表しています。その確率については4年以内に70%とも50%以下とも言われていますが、東日本大震災は決して他人事ではないのです。私たちも「万が一」のために、十分な準備をすべきでしょう。

日本漢字能力検定協会は、平成23年(2011年)を表す漢字を「絆(きずな)」と発表しました。「絆」とは断つことができない人と人のつながりを意味します。これまでは、「個」の重要性が叫ばれ、昨今は個人主義に走る傾向が目立つようになってきました。しかし、今こそ私たちはこの「絆」の意味を噛み締めて、被災者、家族、友人との「絆」を持ち続ける気持が必要なのではないのでしょうか？ ラグビーでは、「ワン・フォー・オール、オール・フォー・ワン」ということが言われていますが、実際にはすべてに通じる言葉なのだと思います。

この雑誌のタイトルは「オアシス」ですが、この病院を訪れる患者さんにとって、当院が「心のオアシス」であるよう、職員一同、心より願っております。本年4月からは、難病のトータルケアを実践する「5つの先端治療センター」、「スポーツ医学診療センター」、「医療連携支援センター」が創設され、さらにきめの細かい医療ができるように配慮を致しました。皆様からの厳しく、かつ心暖かいご支援とご鞭撻をいただければ幸いです。

平成24年(2012年)5月

患者さんの気持ちを大切に…

# 難病の「トータルケア」を実践する 5つの先端治療センターがスタートしました

治療が困難な「難病」にかかり、悩みや苦しみを長い間抱えている患者さんやその家族が、安心して社会生活を送れるように、患者さんの気持ちを大切にしながら、適切で心のこもった診療を行うことが、センターの目的です。

難病治療のために、  
特定の「難病」ごとに分かれた  
5つの先端治療センターが  
あります。

詳しい情報は4ページをご覧ください。

東京医科歯科大学医学部附属病院では、従来から「難病」の治療に積極的に取り組み、多数のエキスパートが診療に当たっております。5つの先端治療センターでは、そのノウハウを生かし、難病を持つ患者さん一人一人の心に寄り添い、苦しみや不安を少しでも和らげるように、複数のエキスパートがチームとなって診療をトータルに進めていきます。

## 先端治療センターの特徴

- 世界的に見ても高度な知識と技術を持った医師が、難病治療を担当します。
- 「難病」に関わる全ての診療科の経験豊富な医師が集まり、患者さんの症状に合わせてきめ細かい治療を行います。
- それぞれの「難病」を専門とする「センター」を受診することで、最善の診療を受けることができます。

## Q 先端治療センターの受診方法は？

A 当病院に初めておかけになる方は電話で受診予約ができます。

受診を希望する患者さんは、

### 1. 紹介状



まず難病の診断をしてくれた医師に「紹介状(必須)」を書いてもらいましょう。

### 2. 電話予約



当病院の  
**医事課予約担当**  
TEL 03-5803-5853  
に電話をして下さい。

- ・紹介状の有無を伝えましょう。
- ・他の病院で診療されている疾患名を伝えましょう。
- ・受診希望日を伝えましょう。

### 3. 予約日の決定

### 4. 予約日に受診



- ・紹介状を必ずお持ち下さい。
- ・初診受付窓口で、各先端治療センターに予約があることをお知らせ下さい。

医療機関からのご紹介につきましては、次の電話番号をお願いいたします。  
TEL:03-5803-4770 FAX:03-5803-0119

1

膠原病・リウマチ  
先端治療センター

2

潰瘍性大腸炎・  
クローン病  
先端治療センター

3

腎・膀胱がん・  
前立腺がん  
先端治療センター

4

神経難病  
先端治療センター

5

頭頸部・頭蓋底腫瘍  
先端治療センター





# 難病の先端治療センター 患者さんにどう役立てる？ 5人のセンター長に聞きました



## 膠原病・リウマチ先端治療センター

- 対象となる難病
  - ・関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・多発性筋炎、皮膚筋炎・血管炎症候群・全身性強皮症・混合性結合組織病・シェーグレン症候群・抗リン脂質抗体症候群・成人発症スチル病・ベーチェット病・リウマチ性多発筋痛症・強直性脊椎炎・その他の脊椎関節症・反応性関節炎・原因不明の関節炎・発症早期の関節炎・再発性多発軟骨炎
- 連携する診療科
  - 膠原病・リウマチ内科、整形外科、リハビリテーション部、運動器外科学



### 針谷正祥センター長から一言

長い間、薬を飲み、通院する必要がある膠原病やリウマチ。患者さんに寄り添い、信頼関係を築き、安心して治療が受けられる環境を整えることも医師の大切な仕事です。センター化によって治療に重要な薬やリハビリ、手術などについてきめ細かく説明し、患者さんのQOL向上をめざして最先端の治療を提供できるように努力してまいります。

## 潰瘍性大腸炎・クローン病先端治療センター

- 対象となる難病
  - ・潰瘍性大腸炎
  - ・クローン病
  - ・腸管の炎症を原因とする以下の疾患
    - 腸管ベーチェット病、単純性潰瘍、非特異性小腸潰瘍症、腸結核
    - そのほか原因不明の小腸・大腸炎、潰瘍がある患者さん
- 連携する診療科
  - 消化器内科、大腸・肛門外科、放射線科、光学医療診療部、病理部



### 渡辺守センター長から一言

潰瘍性大腸炎やクローン病は10代で発症し、寛解と再発を繰り返す病気だと思われていました。当センターでは、若いうちにある程度治療を進め、その後は東京医科歯科大学が開発したMRECという患者さんへの負担を軽減した検査を定期的に行いながら、小腸と大腸を同時にきめ細かく観察し、再発が防げるように治療を進めます。私たちと一緒に希望を持って難病と向き合いましょう。

## 腎・膀胱・前立腺がん先端治療センター

- 対象となる難病
  - ・腎がん（腎臓がん）
  - ・膀胱がん
  - ・前立腺がん
- 連携する診療科
  - 泌尿器科、低侵襲医学研究センター、放射線科、病理部



### 木原和徳センター長から一言

腎がんでは小さな穴から腎の血流を遮断せずに、がんの部分を摘除するという、体にも腎機能にも低侵襲な手術を、前立腺がんでは合併症のリスクを最小にする手術や部分治療を、膀胱がんでは放射線と抗がん剤と部分切除を併用して膀胱を温存する治療を、独自の3D画像システム・ミニマム創手術を用いて推進していきます。

## 神経難病先端治療センター

- 対象となる難病
  - ・多発性硬化症（MS）、視神経脊髄炎（NMO）、重症筋無力症（MG）、慢性炎症性脱髄性多発神経炎（CIDP）、多発性運動ニューロパチー（MMN）、クロー・フカセ症候群（POEMS 症候群）、表層ジデローシス、多系統萎縮症（MSA）
  - ・もやもや病、神経線維腫症、間脳下垂体腫瘍、難治性てんかん
  - ・頸椎後縦靭帯骨化症、頸椎症性脊髄症・平山病（頸椎症性筋萎縮症）、成人脊柱変形、脊髄腫瘍
- 連携する診療科
  - 神経内科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション部



### 水澤英洋センター長から一言

神経難病は難病の中でも、特に原因解明や治療法開発が遅れている病気です。しかし決して「原因不明の治らない病気」ではなく、あきらめたり悲嘆に暮れることはないのです。このセンターでは、最先端の研究がどこまで進み、どんな治療薬や治療法があるかについて、きちんと説明した上で、患者さんの期待に沿って最善の治療を進めていきます。

## 頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター

- 対象となる難病
  - ・以下の頭頸部腫瘍全般
    - 鼻副鼻腔腫瘍、舌およびその他の口腔腫瘍、上・中・下咽頭腫瘍、喉頭腫瘍、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、頸部腫瘍など
  - ・以下の頭蓋底腫瘍
    - 嗅神経芽細胞腫、眼窩腫瘍、若年性鼻咽腔血管線維腫、頭蓋底・頭頸部肉腫、脊索腫、髄膜腫、三叉神経鞘腫、頸静脈孔神経鞘腫、頸静脈孔グロムス腫瘍、聴神経腫瘍
- 連携する診療科
  - 頭頸部外科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、形成外科、食道・胃外科、放射線科



### 岸本誠司センター長から一言

頭頸部がんの手術では、術後も食べたり話したりする機能が損なわれないように、また顔や首の傷あとが目立たないようにしたり工夫しています。また難易度の高い頭蓋底腫瘍の手術では、重大な合併症を起こさないように様々な努力をしています。

4月からのセンター化で今まで以上に、診療に参加する複数の診療科それぞれが持つ得意分野を最大限に活かして、世界でもトップレベルの治療をより多くの患者さんに提供できるよう、高度の専門性を持つ医師たちによる息の合ったチーム医療を推進します。

## オアシスHOT NEWS

# 1 「医療連携支援センター」がスタートしました



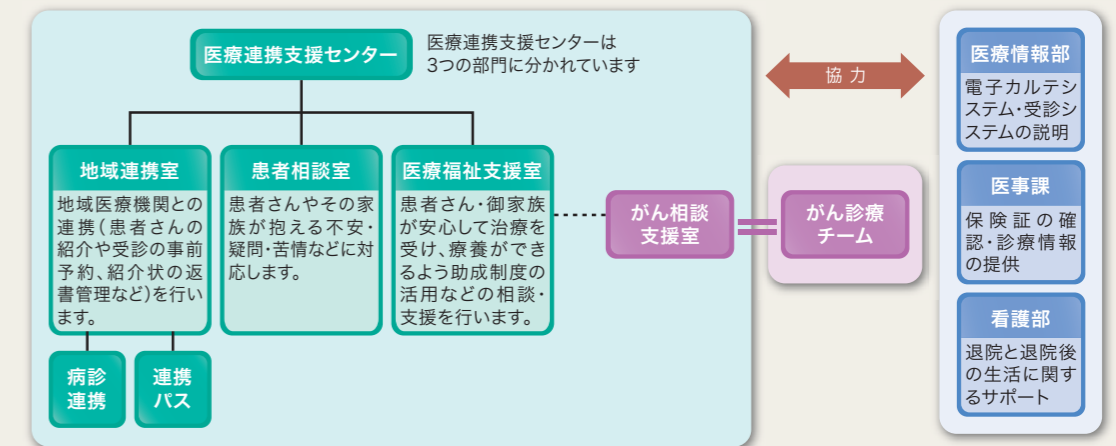
副センター長  
泉山肇医師

「医療連携支援センターは当病院の『第一印象』を決める、とても責任ある仕事をしています」と話す田中雄二郎医師。その1つが他の病院からの紹介患者さんのスムーズな受け入れ。紹介患者さんの情報が来たらすぐに受け入れ体制を整え、受け入れ後も患者さんの様子を紹介先の医師にきちんと報告するなど、きめ細かくフォローすることで、患者さんが安心して治療を受けられるようにします。さらに初めてこの病院に来た患者さんになるべく不安を感じないような受け入れ体制を整えていきます。また入院患者さんの退院の準備や退院後の治療計画などについてもサポートします。特に当病院は全国各地から患者さんが集まるため、退院後の生活プランは多様化します。1人1人の患者さんの希望に沿った退院後の快適な生活がスタートできるように支援するのも大切な仕事です。「自分たちに期待されていることは何か？自分たちにできることは何か？と常に自問自答しながら、患者さんに喜ばれ、信頼される病院になるよう努力します」という泉山肇医師。今秋には1階に本拠地を構え、一層のサービス充実を図ります。



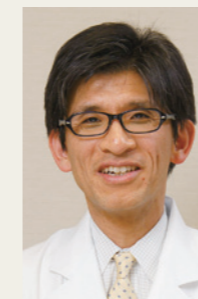
センター長  
田中雄二郎医師

医療連携支援センターのおもな仕事



## オアシスHOT NEWS

# 2 「糖尿病・内分泌・代謝内科」を小川佳宏医師が担当します



糖尿病・内分泌・代謝内科教授  
小川佳宏医師

小川佳宏医師は2003年4月に東京医科歯科大学難治疾患研究所に着任してからずっと、内臓脂肪型肥満を背景として発症するメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、動脈硬化症などの生活習慣病の発症メカニズムと、新しい治療法や治療薬についての研究を続け、海外でも高い評価を得るような、数々の実績を積み重ねてきました。「研究の現場で培った経験を、病気に苦しむ患者さんのために活かすことが自分の使命だと考えています。特にここ数年で糖尿病の研究が進み、治療効果の高い薬も生み出されました。最先端の診断法や治療法を使ってよ

り質の高い医療を行ってまいります」と話す小川医師。当科では糖尿病や高血圧のような患者さんの多い生活習慣病とともに、比較的頻度の少ない内分泌疾患の診療を担当します。小川医師は「ホルモンの異常をきたす内分泌疾患は全身の臓器に影響を与えます。一方、糖尿病も網膜症、腎臓病、神経障害など、全身に症状が出るという共通点があります。いずれの疾患でも、他の診療科と連携することが多く、自分たちが『縁の下の力持ち』となって、患者さんを支えていきたいと思えます」と抱負を語ってくれました。





## 奨学寄附金・大学基金のお願い

### 奨学寄附金のお願い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっております。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

#### 問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務部  
産学連携室 産学連携掛  
TEL：03-5803-4927  
FAX：03-5803-0179



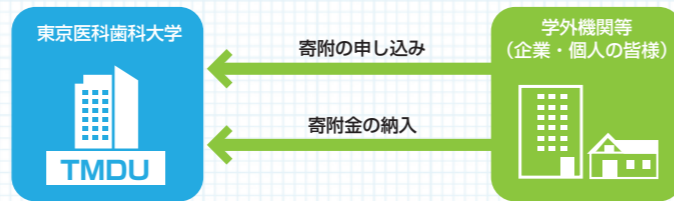
## 献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記にお願い致します。

#### 問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会  
TEL：03-5803-5147

### 奨学寄附金の流れ



### 東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために次ような「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

#### ●国際交流事業

留学生の支援・学生の海外派遣の推進・海外拠点の支援・外国の大学などの教育・研究協力・交流の支援

#### ●学生育成奨学事業

優秀な学生への奨学金の充実・勉学環境の充実

#### ●その他の事業

産学連携・社会貢献活動の支援

#### 問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室  
TEL：03-5803-5009  
FAX：03-5803-0273



## セカンドオピニオン外来とは

セカンドオピニオン外来は、当院以外の主治医にかかられている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申し込みください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、担当医にお申し出ください。必要な診療情報提供書や資料をご用意いたします。

### オアシスHOT NEWS

## 3 「スポーツ医学診療センター」がスタートしました!



スポーツ医学  
診療センター長

### 柳下和慶医師

4月からスタートしたこのセンターでは、スポーツによるけがや病気が早く治るように先進的な検査、治療を行い、スポーツ医学分野での先進医療技術の開発と普及に取り組むことで、スポーツ医学の発展に寄与していきます。スポーツ医学診療センター長の柳下和慶医師は、従来までの「スポーツ整形外科」などの通常の診療以外に、「アスレチックリハビリテーション部門」を設けて、より早く回復し、より高いレベルの競技復帰を目標としたリハビリテーションを行います。また今年7月に開催されるロンドンオリンピックに向けて世界で競い合う実力を備えたトップアスリートのサポートにも積極的に取り組みます。当病院の地下1階には国内最大の「高気圧酸素治療室」があり、一度に16人が高気圧酸素の治



療を受けることができます。高気圧酸素治療については、スポーツ外傷における治癒促進などの効果があるとされており、現在、そのメカニズムについても研究が進んでおり、その成果を十二分に活用するためには、基礎と臨床を結び付けてスポーツ医学を包括的に考える必要があるようです。このような研究から、スポーツ外傷・傷害の新しい予防・治療プログラムを構築する可能性も期待されています。柳下医師は「当病院のスポーツ整形外科の技術は日本国内のトップアスリートにも定評があります。その基盤の上に、今回のセンター化によって、高気圧酸素治療やアスレチックリハビリテーションも取り入れて包括的なスポーツ医療に取り組んでいきます」と述べています。

## 栄養管理室から

栄養管理室は、600人余りの入院患者さん一人一人に合わせた食事メニューを作り、栄養の管理を行っています。小野寺公枝室長は「朝の4時半から朝食作りが始まり、夕食の片づけが終わるのが夜の10時。その間、休むことなく厨房は動いています。患者さんの病気の種類、好み、アレルギーなどを考慮に入れながら、献立を組み立てています。入院患者さんを食で励ますことができたらうれしいです」と話します。冷凍野菜などを使わずに、新鮮な野菜を手間を惜しまずに下ごしらえして調理します。患者さんがとても喜んでくれるのが季節ごとの行事食。逆に「嚥下困難や口腔内治療」などでうまく噛めない、飲み込めないという患者さんのために、ペースト食なども用意します。「患者さんの『おいしかった』という言葉が一番の喜びです」と小野寺室長をはじめとする6人の栄養管理室のスタッフは、今日も患者さんのために献立作りと栄養管理に励んでいます。



栄養管理が良いので笑顔もヘルシー?

### 食で元気に! 食彩たより

私たちの腸内には100種類100兆個の腸内細菌がすんでいます。腸の中ようすは、食べ物・体調・ストレス・年齢などにより、善玉菌と悪玉菌の力のバランスが変化します。

善玉菌とは?	ビフィズス菌・乳酸桿菌など 善玉菌の代表が乳酸菌で、腸の動きを整え、便秘を予防し、体の調子を整えます。	
悪玉菌とは?	ウェルシュ菌・セラチア菌・緑膿菌など 腸の中で有害物質を作り、下痢や便秘を起こし、体調を崩しやすくします。肉類・脂肪の多い食事で悪玉菌が増えると言われます。	
あなたの腸は善玉? 悪玉?	善玉菌が多い腸ならウンチは黄～黄褐色でオナラも臭くありません。悪玉菌が多いとウンチの色が濃く、オナラも臭くなります。 <b>善玉菌を増やすにはどうしたらいいの?</b> 腸を健康に保つには善玉菌を増やすことです。 ●食物繊維を十分に 野菜、芋類、豆類、キノコ類、海藻類をたっぷり。白飯・白いパンは、胚芽米・雑穀米や胚芽パンに。 ●発酵食品を食べる ヨーグルト、チーズ、乳酸菌飲料、納豆、ぬか漬けなど ●オリゴ糖を摂る ビフィズス菌のエサになるオリゴ糖を1日5～10g。野菜にもオリゴ糖が含まれています。	

栄養管理室制作「食彩たより」第23号より抜粋

病院内レストランのご案内 オークラ カフェレストランメディコ (医学部附属病院 16階 ☎03-5840-6905)・レストランあるめいだ (歯学部駐車場入口付近 ☎03-3811-9607) グリル 峰 (歯学部駐車場入口地下 ☎03-5803-5990)・グリル セインツ (1号館9階 ☎03-3814-6766)・生協食堂 (5号館1階 ☎03-3818-5255)

※工事のためセブンイレブンや売店の場所が移転します。移転先は「ご案内」にお尋ねください。